

阿豆佐和氣命神社 稱阿豆加大明神

祭神 阿豆佐和氣命

神位 文德天皇嘉祥三年六月庚戌伊豆國阿豆佐和氣命授
從五位下仁壽二年十二月丙子加伊豆國阿豆佐和氣命神從
五位上今按齊衡元年六月己卯阿豆佐和氣命神從五位上
何れか衍文なるべし故今本文を存して彼を刪る

祭日

社格 (郷社)

所在 (利島)

利島

今按豆州志式社攷證ともに利島鎮座阿豆加大明神とみえ
て異説なし攷證に舊社地は南の御神山と云山岳上にて小
祠存在す按に今稱の阿豆加は阿豆佐和氣の約と聞ゆるが
此神稱の訛り乍らも本稱の儘に唱へ來れるは珍しく貴と
ふべきこと也かしと云るもの證とすべし

多祁美加加命神社

祭神 多祁美加加命

今按三宅記に三島神の御子神のことを新島に置玉ふ后を
云々此御腹にたいさむの王子とあるは古傳によりて云る
ものとみゆれば此神は三島神の御子なることを知るべし
神位 光孝天皇仁和二年十一月廿五日庚子授伊豆國正六
位上多祁美加加命神正五位下

祭日

新島

社格

所在

今按豆州志に吉佐美村に三島明神坐白鬚を配祀す源三位
頼政の記あり其略曰豆州十七番の御神尾山御倉山の
麓多田美河の河上に坐す當郷朝日里日吉村のうぶすな大
明神人皇六代に當て興津彦興津姫と云々この神必式社な
るべけれども祠典何の命なるや或曰これ多祁美加加命神
社多田美河と語相類して訛誤あるかと云り而るに攷證に
新島鎮座大明神なるべし三宅記に新島に置給ふ后をは
みちのくちのみとの大神とぞ申ける此御腹に王子二人お
はします一人をはいさむの王子とみえ古老の遺説にた
いさむ王子は此島の地主神にして島を開きたる神也と云
て特に尊信するを思へし今稱のたいさむは多祁美の轉訛
にてタケのタキと訛りたるを音便にタイと唱へしを三ど
轉じてタイサムと申せるならむも知るべからずと云る據
ありて聞ゆれば今之に従ふ

物忌奈命神社 犬神

祭神 物忌奈命 稱定大明神

今按續日本後紀承和七年九月乙未伊豆國言賀茂郡有
造島木名上津島此島坐阿波神是三島大社本后也又
坐物忌奈乃命即前社御子神也とあるを思ふに物忌奈命
は三島大社の本后にます阿波神命の御子神とみえたり式

社攷證に古き上梁文に長濱大明神奉申御神者當鎮守
神集島定大明神御母神也とあるにても明かなるも思ふべ
し

神位 仁明天皇承和七年十月丙辰奉授伊豆國無位物忌奈
乃命從五位下以伊豆國造島靈驗也文德天皇嘉祥三年十
月壬子伊豆國物忌奈乃神授從五位上十一月甲戌朔詔以
物忌奈神一列於官社仁壽二年十二月丙子加伊豆國物忌
奈命神正五位下今按齊衡元年六月己卯阿豆佐和氣命神從五位上
何れか衍文なるべし故今本文を存して彼を刪る

祭日 四月六月十一月並中西日

社格 縣社

所在

神津島

波夜多麻和氣命神社

祭神 波夜多麻和氣命

祭日 正月廿五日

社格 村社

所在 (賀茂郡稻梓村大字相生) 相玉村 字井

今按式社考證に相玉村鎮座相玉天神なるべし其は豆州志
に云是極めて古祠也正月走馬の神事を爲す金鼓の銘に曰
正長二年十月豆州稻梓相玉天神宮とありて神階帳に從四
位上おほるの明神と有は此村と聞ゆるが加茂郡に所載
從四位上の神は二十一座にて三島大社の三坐と島々二十

伊豆國 賀茂郡

伊波例命神社

祭神 伊波例命

祭日

社格 (明細帳に 石室神社とあり祭神伊波例命)

所在 (賀茂郡南崎村長津呂) 長津呂村

今按豆州志本郡長嶺村の條に石廊權現本村より十三町已
午の方の洲嘴にあり是即州の極南なり祠は山岸より海上
に造り出す下臨すれば石岸峭立高數百丈波浪洶湧標然と
して足酸す云々とあるによりて式社攷證に伊波例神社賀
茂郡長津呂村岩廊神社なるべし嚴曆上に鎮座なるは伊波
例の稱に協ひ神階帳に所謂いはら姫の明神此にていはら
は伊波例の訛と聞え今稱の石廊又ははらの轉と聞ゆるを
以て證すべしと云る其説確實にして伊波例の石廊なる事
石廊のいはら姫明神なるべきこと知るべし故今之に従ふ